史上初、貴乃花親方理事解任

日馬富士暴行問題というよりもいまや貴乃花親方問題となってしまった一連の日本相撲協会の件。

ここで理事会からテーブルは評議員会に移り、貴乃花親方は理事解任となった。

被害者、加害者という枠を超えて、国技である相撲道、角界であの貴乃花親方の行動では然るべき判断といえる。

テレビではさまざまな意見が飛び交っているが、どう考えてもあの憮然とした、目つきもあやしくすがすがしさのかけらもない貴乃花親方を「組織」が処分するのはきわめて自然体である。相撲は「礼にはじまり礼に終わるのだ」。理事長からの電話にでない。役員が赴いても対応しない。これは社会通念上ありえないのだ。

自分の考えを通したいあまりに常軌を逸してしまうものにリーダーの資格はないのだ。おそらく世論の大方の見方と今回の処分は一致しているに違いない。